

川内原発即時停止応じず

九電 定期検査で安全確認へ

九州電力が、鹿児島県の三反園訓知事から要請を受けた川内原発（薩摩川内市）の一時停止に応じない方針を固めたことが三十一日、分かった。週内にも県に回答する。十月以降に実施する定期検査で発電設備の安全性を確認し、三反園知事の理解を得たい考えだ。

三反園知事は九電の回答が不十分だと判断した場合、即時停止を再度要請する可能性がある。三反園知事は三十一日、記者団に「九電からまだ回答もなく、今のところ何も決めていない」と述べた。

九電は、定期検査の中で、県が求めている原子炉容器や使用済み核燃料の保管設備などの点検を実施。三反園知事の要請に応じて緊急車両を増やすなど原発事故時の避難計画への支援体制を強化するほか、非常時には迅速に情報提供をする意向も伝える。

原発周辺の活断層については「すでに十分な調査を尽くしている」（幹部）とし、再度の調査は実施せず、これまでの検証結果を一筆に説明してこく構えた。

三反園知事は二十六日、熊本地震後、川内原発に対する県民の不安が高まっているとして、直ちに一時停止し、施設の安全性を点検・検証することなどを求める要請書を九電の瓜生道明社長に手渡した。知事は原

発を法的に止める権限はなく、九電の対応が注目されていた。

川内原発は二〇一四年九月に新規制基準に合格。1号機が昨年八月、2号機が

同十月に再稼働した。1号機は今年十月六日から、2号機は十二月十六日からそれぞれ定期検査に入る予定で、二カ月程度運転を停止する。